

生涯学習館林市民の会講座

館林藩の幕末（後編）

～戊辰戦争終結150年を迎えて～

館林藩の戊辰戦争と旧藩士の作る明治

令和元年8月1日

須永 清（館林文化史談会）

今日の話 館林藩の戊辰戦争と旧藩士の作る明治

- 館林藩の戊辰戦争
 - ・ 総野（下総・下野）の戦い
 - ・ 奥州の戦い
 - 白河地域での戦い
 - 会津藩との戦い
 - 仙台口の戦い
 - ・ 山形分領・漆山陣屋の戊辰戦争
- 戊辰戦争のまとめ
- 明治の館林を作った旧藩士

前回まで

慶応4年（1868）

1月 3日 鳥羽・伏見の戦い（戊辰戦争開始）

3月 9日 礼朝、東山道鎮撫総督に倉賀野で謁見を願うも、館林城で謹慎

3月14日 江戸城の無血開城で合意（西郷・勝）
（翌日の総攻撃中止）

3月15日 金2万両と大砲2門を東山道鎮撫総督府に献納

3月29日 謹慎を解かれ、出兵を命じられる

総野（下総・下野）の戦い

～戊辰戦争における館林藩最初の出兵～

結城城の戦い

結城藩水野家の内紛

江戸藩邸 : 藩主・水野勝知、佐幕派
国元（結城） : 家臣は新政府恭順派
 (新藩主・勝寛を擁立)

藩主が、彰義隊と共に自分の城である結城城を攻撃し攻略（慶応4年3月25日）



新政府軍の奥州攻略の最前線基地である宇都宮城の後方にあり、背後の敵



祖式金八郎に指揮された館林藩と須坂藩が城を攻撃。城は無血開城



※藩主・水野勝知は二本松藩・丹羽家からの養子

武井村の戦い

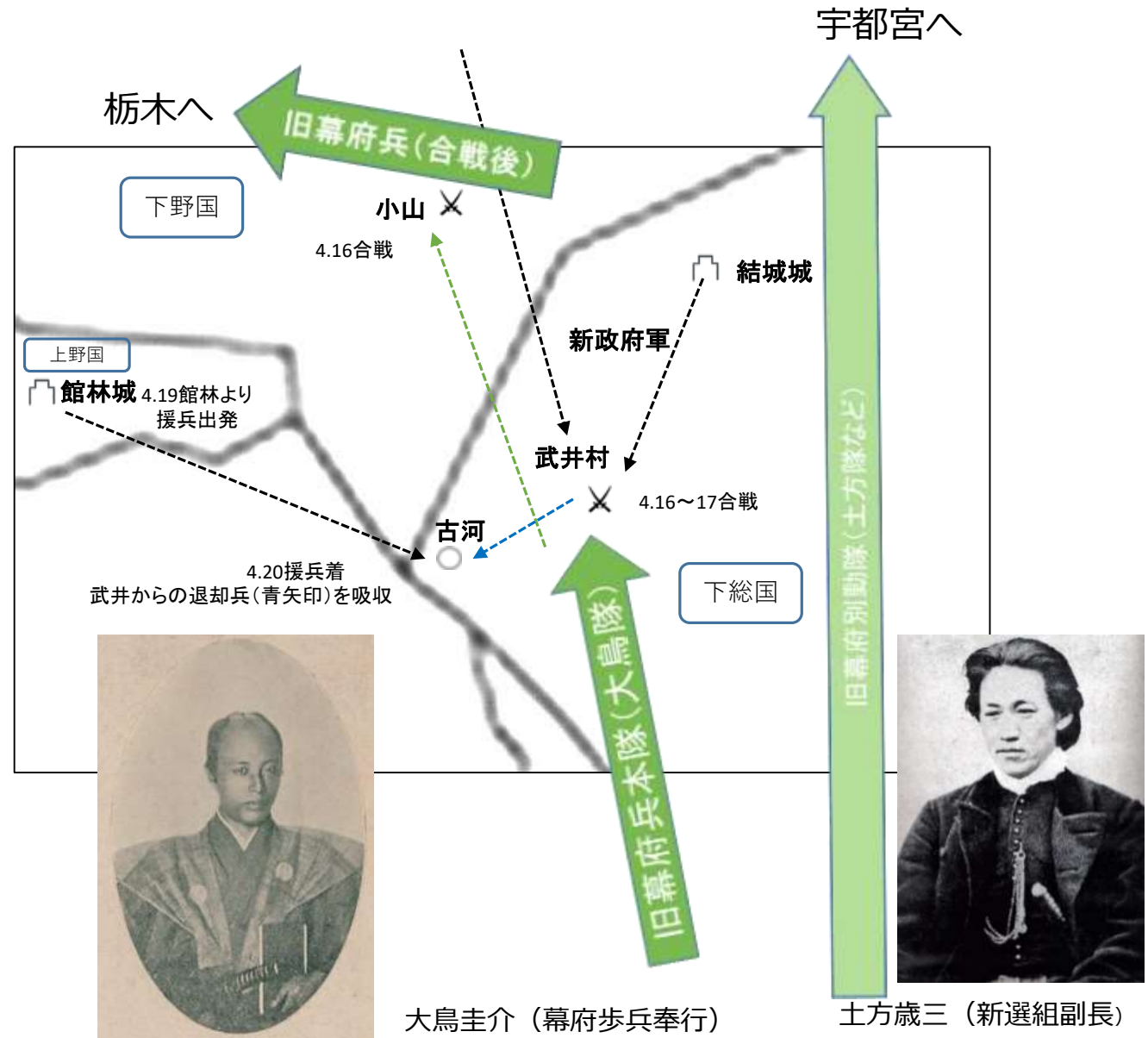
4月11日に江戸城明け渡し

旧幕府兵が大量に江戸を脱出。
主力は**正規のフランス式訓練を受けた幕府最強の伝習隊**であり、**指揮官は大鳥圭介**（土方歳三は別動隊で進軍）



新政府軍はこの北進を阻止するために旧幕府軍と下総・武井村や小山で交戦。

4月16～17日戦うが、新政府軍敗北



武井村の戦い

戊辰戦争における館林藩の初めての戦闘で**4人の館林藩士が戦死**

4月16日小山にて 山本富八 武井村辺りにて 山澤與四郎

4月17日武井村にて 石川喜四郎、進藤常吉

館林や合戦のあった武井村・泰平寺（廃寺跡）にお墓

※「武井泰平寺境内にある官軍の墓」は結城市の定めた「**結城百選**」に選定



結城市武井・官軍（館林藩士）墓地



善長寺・山澤家墓地



円教寺・進藤家墓地

その後の旧幕府軍

下野国（栃木県）との藩境を会津藩が越境→宇都宮城が境目の城→攻防戦

19日に宇都宮城が落城し、脱出した前藩主・戸田忠恕や家臣は館林に避難

最終的には新政府軍が奪還し、敗れた旧幕府軍は会津に向かい、戦場は奥州へ



奥州・白河地域での戦い

館林藩の奥州出兵

白河城（小峰城）をめぐる攻防

うるう 閏 閏4月20日 会津軍が占拠

5月1日 新政府軍が奪取

棚倉城も6月24日に新政府軍が落とす

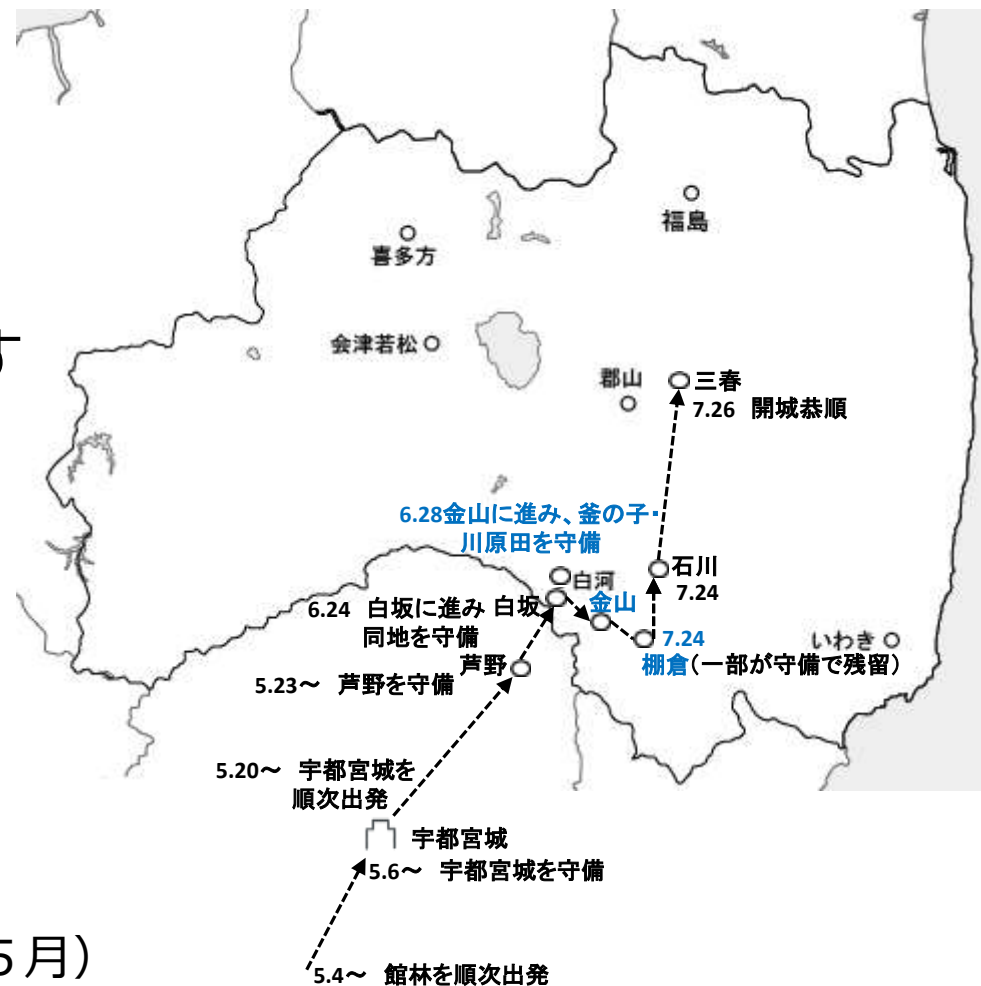


以後、**奥羽越列藩同盟**が奪回をめざす

(長期戦：閏4月20日～7月14日)

館林藩も奥羽の戦いに向けて出兵
主に鎮撫・守衛の役目を果たす

※**奥羽越列藩同盟**は東北26藩と北越6藩で成立（5月）



余談・閏月とは

旧暦（太陰暦） 1月＝新月から新月まで 1周期は約29.5日

→29日の月×6ヶ月＋30日の月×6ヶ月 1年＝354日

四季の移り変わり 地球が太陽の周りを1周＝365日（閏年は366日）

→旧暦では季節と暦のずれが11日発生

→この“ずれ”を集めて1月にしたものが「閏月」

通常、毎年11日のずれが発生するので、3年に1回、閏月が発生

例) 坂本龍馬 誕生：天保6年11月15日（新暦 1836年1月3日）

死亡：慶応3年11月15日（新暦 1867年12月10日）

旧暦では同じ月・日であるが、新暦では1月ほど前にずれている。

このため、慶応4年の4月と5月の間に「閏4月」が追加され、

暦と季節感のずれが調整されている。

白河周辺と館林

- ① **正金寺（白河市表郷金山）にある館林藩士の墓（左側）**
村山直衛家来・梅澤長次郎の墓がある。（7月16日没）
館林藩が金山に駐屯しており、この日に釜の子で
棚倉城奪回をめざす同盟軍と新政府軍との間に戦闘が
あったので、これとの関連が考えられる。

※『三百藩戊辰戦争事典』（新人物往来社）

右側は仙台藩士・西田林平の墓である。



- ② **釜の子陣屋（白河市東釜子本町）**

越後高田藩の飛び地であり、高田藩主は榊原氏で3代忠次の時に館林から白河に転封した。
館林藩・漆山陣屋（山形）と同様に本藩と遠く離れ、高田藩（本藩）は新政府軍として
北越戦争に参戦しているが、釜の子陣屋は新政府軍により攻撃されて6月25日占拠され、
一部藩士が会津に向かう。

- ③ **棚倉城**

館林藩主7家の中の3家（越智松平家・太田家・井上家）が棚倉から館林に移封して来ており、
とても縁のある地。

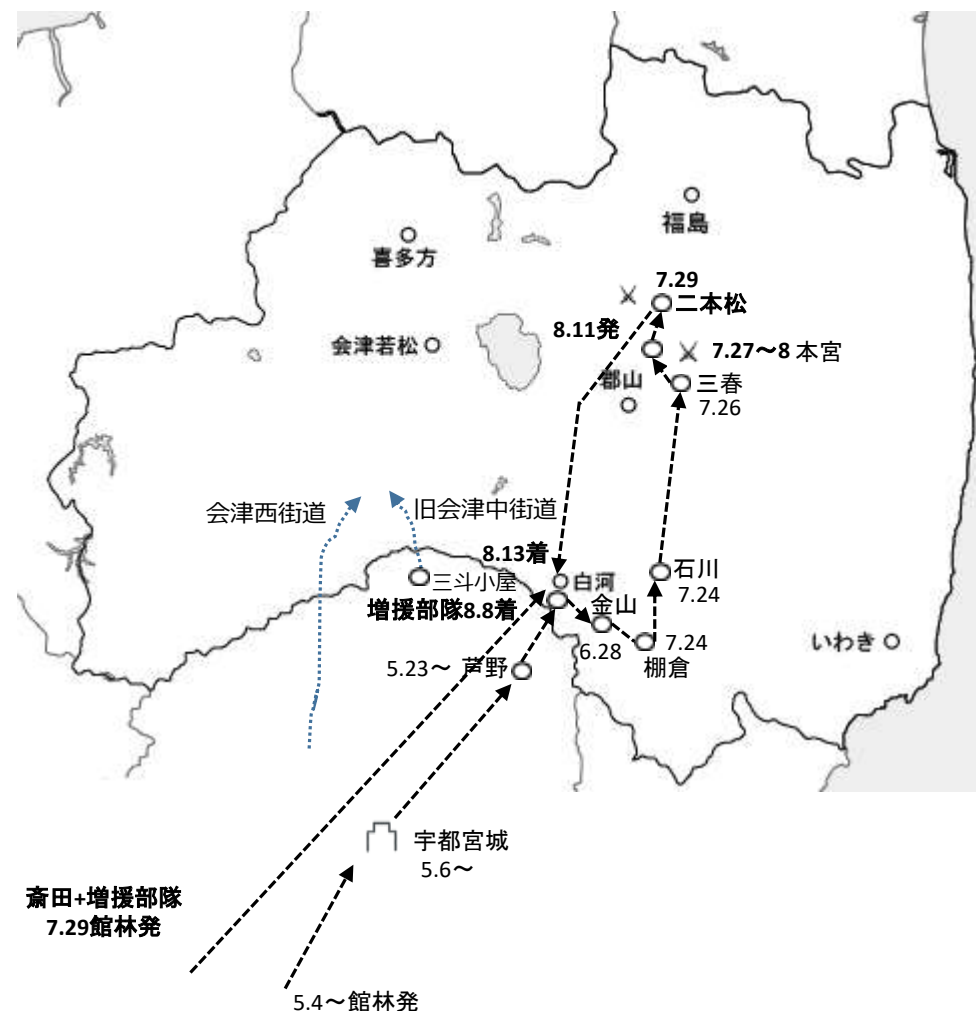
本宮の戦いから白河帰還へ

27日に新政府軍と二本松藩が本宮で衝突し、新政府軍が制圧（館林藩は郡山本街道を守衛）

28日は奥羽越列藩同盟軍が奪還すべく来襲
館林藩にとっては、奥州初の本格的な合戦
柴田蔵次郎および大砲夫卒・齊藤政吉・桜井道蔵・原島惣助戦死。重症の下田半太夫は9月18日三春にて死亡。大砲2門を失う

29日に新政府軍は二本松城を攻撃。
館林藩と黒羽藩は戦後の警備を担当

8月13日に白河へ帰着し、同所を守衛
（館林からの援兵や棚倉城守備の部隊も集結）
館林藩に黒羽藩と共に三斗小屋宿の敵を掃討し、会津西街道からの新政府軍と合流して会津若松を攻めよとの命令。22日に白河を出発



奥州・会津藩との戦い

会津国境 の戦い

中峠にて
多賀谷松之助・
高柳要之助、

駒返坂にて
永田伴次郎
戦死



会津若松城下に進軍

9月2日大内宿で会津西街道からの
新政府軍と合流

3～4日は関山・丸山で激戦。
これに勝利

5日には会津若松に到着し城下・材木町
で戦う。会津軍の反撃にあい、七日町に
退却し宿営

この日の戦いで**高山清記・小澤劔之助・
津田平吉・本木弥三郎、従者の栃尾熊吉、
夫卒の野村勝蔵・川島与兵衛・多田由兵
衛・奥澤金平・茂木常吉が戦死**



会津若松城下の戦い

会津若松城城下を転戦。館林からの増援部隊も合流し、14日会津若松城総攻撃。会津藩は22日に降伏

なお、探索のために会津に潜入し捉えられていた塩谷右兵衛・清水又右衛門を会津藩は既に8月22日に斬首

(墓は会津若松の東明寺。西軍墓地がある)

17日には田島・三斗小屋の敗残兵鎮圧のため白河に転戦。会津若松城開城後に守備を行った部隊も白河に順次移動。

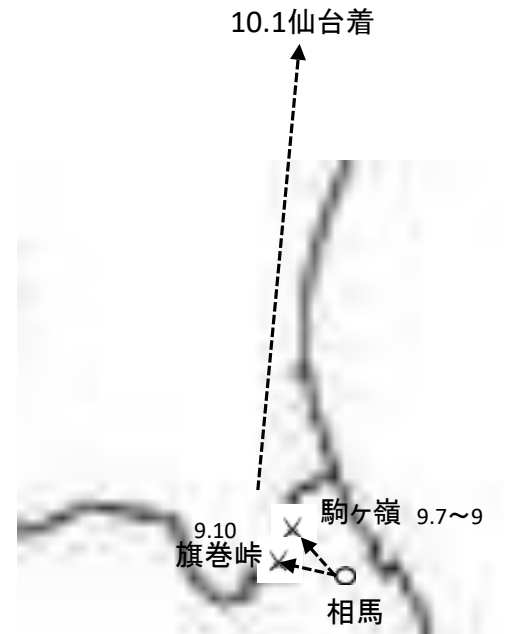
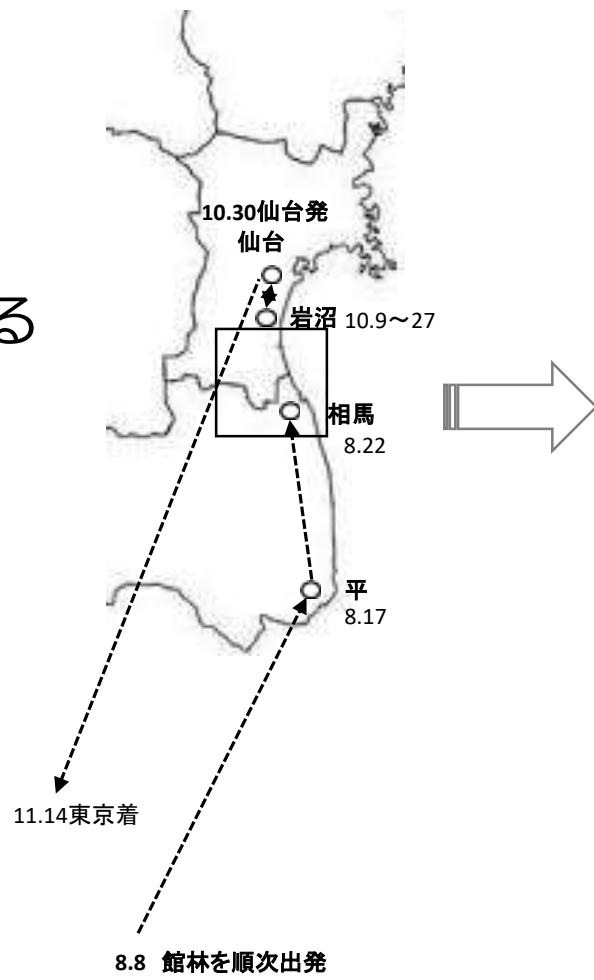
10月に入り、白河から館林に順次、帰還

10月2日斎田総隊長以下が漆山へ出発



仙台口の戦い

- 8月23日 駒ヶ嶺に移動・同所守衛
- 8月30日 **小川村斥候の矢部銀右衛門・山下亀治が戦死**
- 9月7日 駒ヶ嶺で同盟軍の攻撃を受ける
- 9月10日 **旗巻峠にて仙台藩と激戦。**
青木三右衛門・田口虎輔・藤崎栄造・大友鉄四郎・遠藤彦十郎・田口曾右衛門が戦死
(仙台口での戦死者の墓は相馬市慶徳寺)
- 9月15日 仙台藩降伏
- 10月9日 岩沼を守備 (~27日)
- 10月30日 仙台追討総督・四條隆謨(たかうた)の東京凱旋に御供
- 11月22日 館林に帰還



館林・円教寺の田口家墓碑と田口曾右衛門の墓銘
(九月十日俗名曾右衛門)

山形分領・漆山陣屋の戊辰戦争

新政府軍の命令で庄内藩と合戦（館林藩、東北での最初の戦い）

蔵増（くらぞう）の戦い

- 4月28日 天童出兵（奥羽鎮撫総督の指示で庄内藩を攻撃）
- 4月29日 溝延（みそのべ）河岸で庄内藩と戦闘
- 閏4月2日 蔵増（くらぞう）河岸に移動
- 閏4月4日 蔵増河岸で庄内藩と戦闘
梶塚勇之進および大砲方夫卒・鈴木清六・宮崎鶴治・桜井孫八戦死（織田家・天童城も庄内藩に攻撃され同じ日に落城）



苦悩する漆山陣屋

奥羽越列藩同盟の機運の高まり

→ 庄内藩との戦い（蔵増の戦い）の責め : 「止むなく」と弁明

同盟軍より出兵要請 : 蔵増の戦いで損害あり、困難。米200俵差し出す

奥羽越列藩同盟の成立（5月6日）・・・**周囲の藩は全て加盟**

→ 北越出兵を求められる（6月6日） : 再三拒むも「止むなく」承諾

米沢藩の指示に従い出陣するが、攻撃には参加せず（番兵）（6月13日）

※この時期、館林藩（本藩）は既に新政府軍として奥州出兵中

6月下旬頃 分領の状況報告と本藩の指示を受けるため、森谷留八郎を館林に派遣

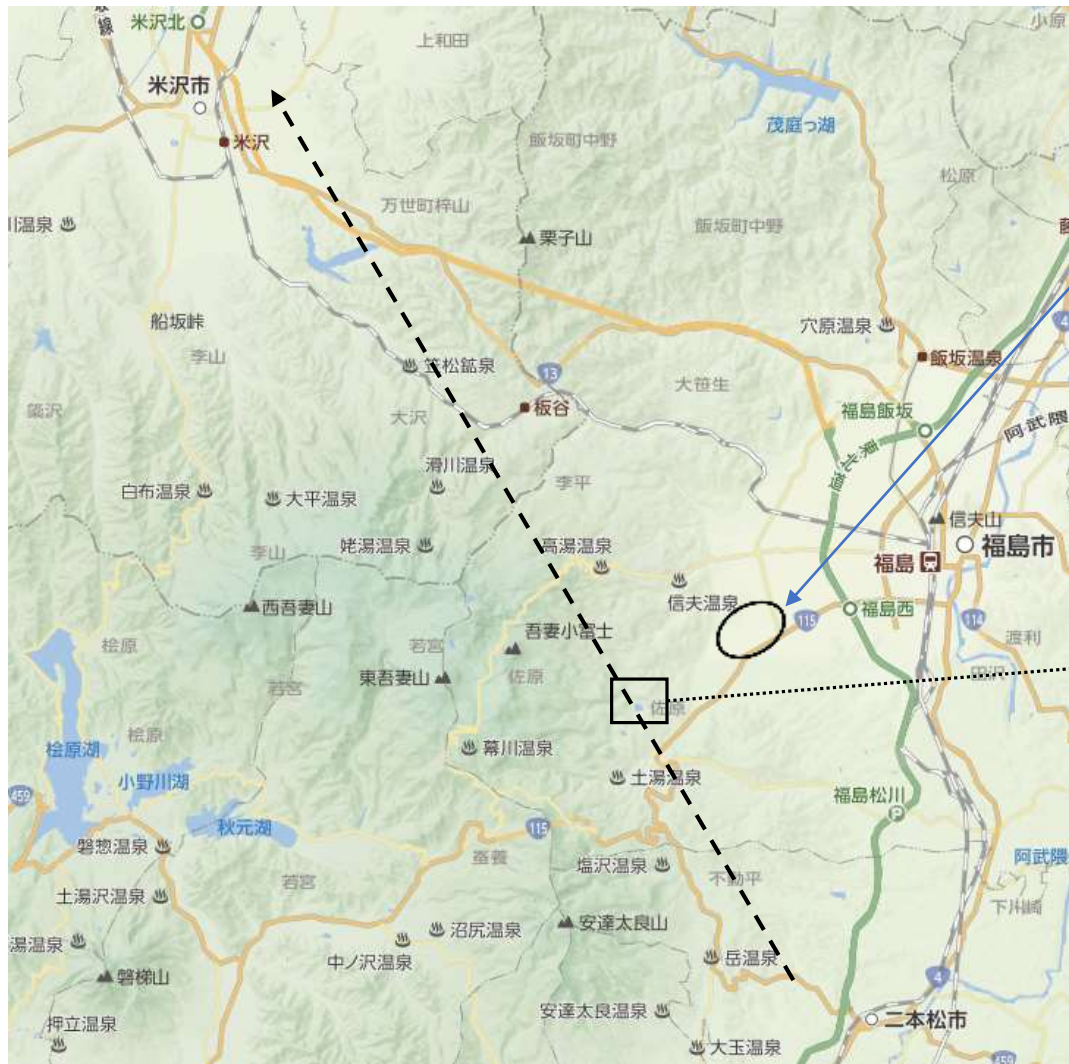
8月 8日 地元の騒動鎮圧のために陣を離れ、漆山へ帰還

8月 17日 元・江戸留守居役の勝沼精之允と同志7名が脱藩

陣屋は列藩同盟が占拠し米沢藩預かり。藩士・家族は米沢に移される

9月 7日 森谷留八郎、漆山への帰途、奥州二本松領塩の川辺りで遭難（斬殺）

漆山陣屋藩士・森谷留八郎、漆山への帰路



現地案内人の阿部喜左衛門は上名倉村の住人



森谷留八郎 供養碑



供養碑の背後は吾妻連峰



供養碑とその謂れの碑

館林藩の戊辰戦争が終結

- 9月下旬 奥羽諸藩降伏 仙台藩：15日 会津藩：22日 庄内藩：24日
列藩同盟瓦解により漆山へ26日から追々帰還
- 10月 7日 会津若松から進軍の館林藩兵が漆山陣屋に到着
- 10月17日 奥羽鎮撫総督・九条道孝、漆山に到着
27日まで滞在←館林藩を信頼？
参謀・大山格之助より「謹慎其儀二及バズ」
- 10月25日 勝沼精之允、上山にて自害
- 12月 8日 館林藩兵が漆山を出発し、20日に館林に帰還
最後の菅沼隊は明治2年2月9日に館林へ帰還
館林藩の戊辰戦争が終わる（箱館の戦いは5月に集結）



明治戊辰戦争凱旋絵馬（尾曳稻荷神社所蔵）

漆山陣屋藩士・勝沼精之允の供養碑



上山市宮脇 金剛院近辺の
無縁墓地のような場所
にある。
碑には戒名がなく、
「南無阿弥陀仏」とのみ
刻まれている。



藩の方針に背いて脱藩した勝沼精之允は
土籍を削られ、明治4年作成の旧藩士禄
高帳には未記載（旧藩士族904戸）

昭和12年1月の秋元家資料では勝沼五
郎・森谷孝吉が土族に復籍し、旧土族数
は906戸

勝沼精之允の妻子は生き延び、孫の
勝沼精蔵は後に名古屋大学総長を10
年間勤め、昭和29年には文化勲章を
受章（オキシターゼの研究、“脳波”の
生みの親）

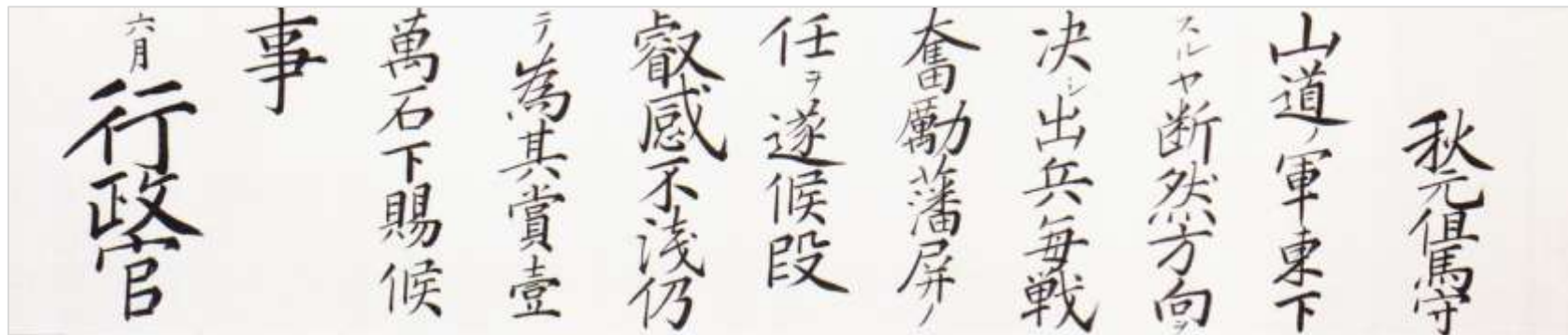
戊辰戦争のまとめ

(1) 戊辰戦争の出兵人数

出兵先	出発日	兵隊	夫卒	合計
総野の戦い、野州・上州の鎮撫	4月3日	69	22	91
上記の増援部隊（古河で合流）	4月19日	79	29	108
漆山陣屋・庄内藩との最上川の戦い	4月28日	30	10	40
白河～二本松および会津若松の戦い	5月4日	263	122	385
上州・戸倉口の警備	6月10日	93	32	125
相馬・旗巻峠の戦い、岩沼警備	8月8日	274	70	344
合計		808	285	1,093
東山道総督に東京まで御供（警備）	閏4月19日	72	25	97
河内領黒土陣屋より新政府軍の兵糧運搬	1月	-	50	50

『館林市史 資料編3 近世1 館林の大名と藩政』 資料6-17より

(2) 恩賞



戊辰戦争感状（館林市立資料館秋元家コレクション） 『館林最後の城主 秋元家の歴史と文化』より

賞典一万石の内八千石を軍功者への恩賞として、藩士へ褒賞金を配る

(3) 戦没者の慰霊

明治 2年9月 秋元家が「招魂祠」を近藤の大谷原調練場に造営し、戊辰戦争戦死者
(39名)を祀る。 ※参考：戦傷者は34名

明治 8年4月 関東では館林・宇都宮・黒羽の3社が太政官達により官祭招魂社となる。

明治14年4月 現在地の代官町の地に遷座

昭和14年4月 名称を「邑楽護国神社」と改称

西南戦争～第二次世界大戦の間の邑楽郡の戦没者を合祀し、例大祭を3年に1回、
4月23日に奉賛会主体で実施 (邑楽護国神社の案内板より)



邑楽護国神社の本殿および境内



大祭全景



巫女による浦安の舞

平成30年4月23日に行われた「邑楽護国神社創建百五十年記念大祭」の様子

明治の館林を作った旧藩士

(1) 版籍奉還

明治2年(1869)6月 新政府が実施

版(土地) 籍(人民) を朝廷にお返しする

藩主 → 「知藩事」に任命され、統治を続ける

藩財政 → 「現石」(藩の実収入=従来より徴収した実収入)

- ・館林藩は「37,450石」が認められる

※従来の表高の約6割。(上野国諸藩の平均は3割。高崎藩では表高82,000石に対して現石は33,110石と館林藩より少ない)

- ・その内の1割が秋元家の俸禄

- ・残りの9割から1割の軍事費を引いたものが家臣の俸禄や藩財政資金

- ・藩士の俸禄削減 900~200石 → 一律40石

全ての藩士が40石~5石二斗の間

岩尾貞和・編集『士族禄高取調べ帳』より

(2) 廃藩置県 明治4年(1871)7月

館林県：邑楽郡、新田郡、山田郡+河内分領

秋元家は東京に移住し、官選の知事が就任

藩からの俸禄→国からの家禄



明治6年12月 秩禄奉還の法(家禄奉還の制度)

現金と公債(秩禄公債)で半額ずつ

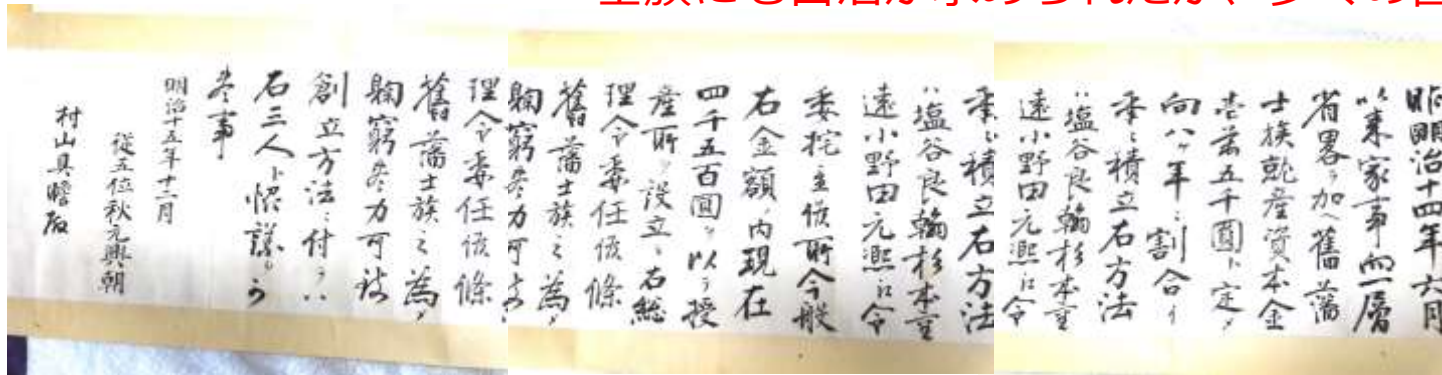
特典として官有地を半額で払い下げ(城跡やつつじが岡など)



明治9年8月布告 秩禄処分

華族・士族への家禄を全員に奉還させ、金禄公債を与える

→士族にも自活が求められたが、多くの困窮者が発生



旧藩士のための授産所の設立と運営を、秋元興朝が村山具瞻(ともみ)に委任する

『秋元興朝文書』(村山家文書)

(3) 立ち上がる士族

※館林関係のみ

旧館林藩士もいろいろな分野で明治維新後の新しい館林を作るために力を注ぐ。

明治期に活躍した旧館林藩士(経済界)

第四十国立銀行	根岸鉄次郎	初代頭取
	南條新六郎	初代支配人、二代目頭取 ※岡谷瑳磨介子息
	笠原円蔵	取締役、二代目支配人
	長山甚平	設立メンバー ※岡谷瑳磨介の甥、山田音羽子子息
	矢部英蔵	設立メンバー
館林貯蓄銀行	笠原円蔵	設立メンバー
	南條新六郎	頭取
館林信用組合	近藤晋二郎	理事長(当時、町長) ※森谷留八郎子息
織物市場	熊谷直方	設立(豎町)(当時、町長) ※多賀谷彦九郎子息
館林精糸株式会社	南條新六郎	初代社長
	笠原円蔵	設立メンバー
館林養蚕伝習所	南條新六郎	創業メンバー
	笠原円蔵	創業メンバー
東武鉄道	南條新六郎	東武鉄道設立発起人、取締役
	熊谷直方	両毛地域への延伸に尽力(当時、町長)
	笠原円蔵	両毛地域への延伸に尽力
	小野田元熙	監査役
上毛モスリン	小野田元熙	社長
	熊谷直方	城址移転斡旋(当時、町長)

『館林文庫 館林人物誌』(福田啓作、寺島鍊二:著)、『館林市史 通史編3 館林の近代・現代』より

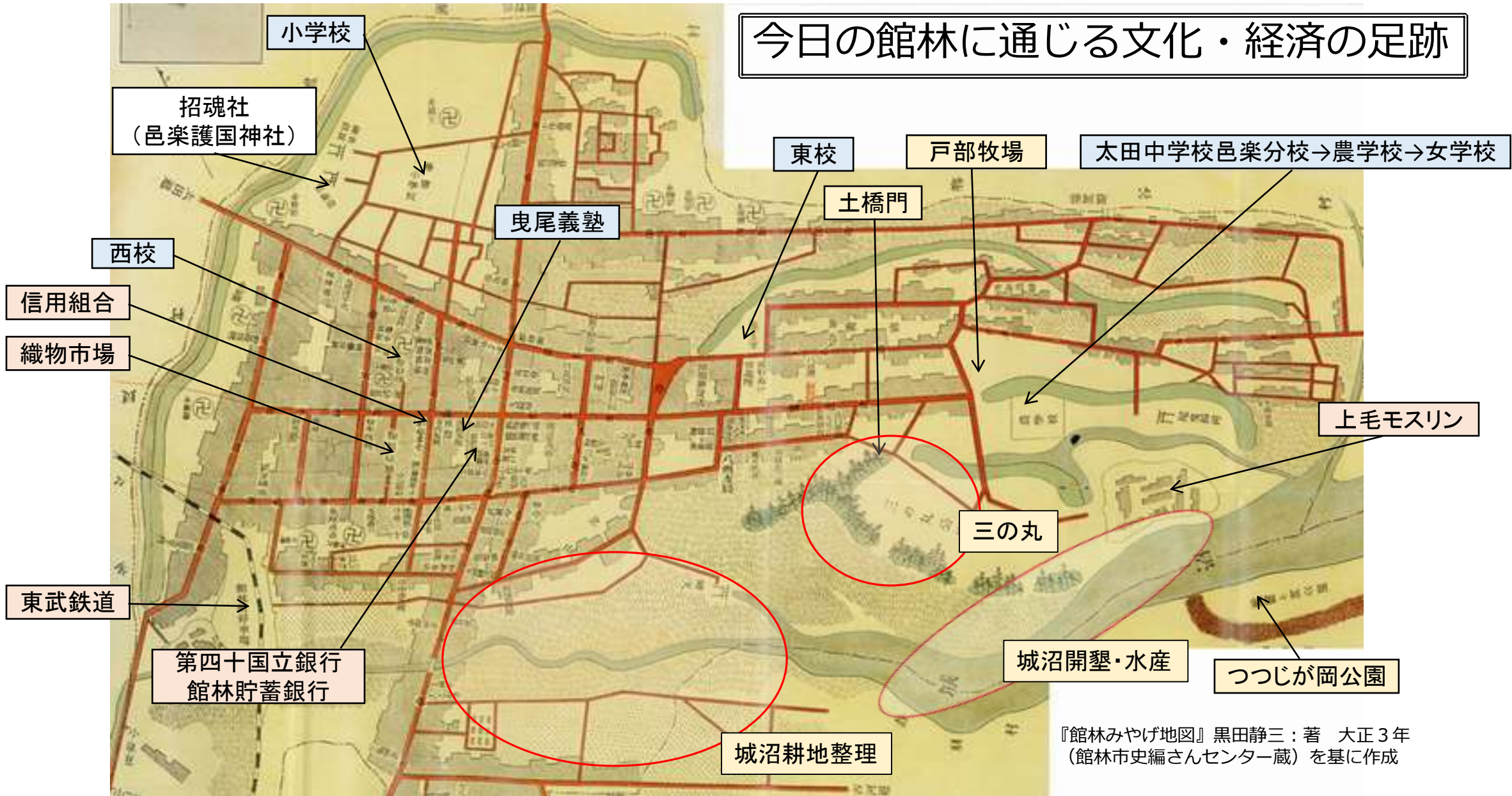
明治期に活躍した旧館林藩士(教育界)		
教育全般	高橋濟	邑楽郡初代学区取締(明治6年後半、9校を設立) 小学校設立や就学奨励に尽力 ※元・断髮党
館林の小学校	秋元興朝 旧藩士有志	育英奨学金貸与(旧館林藩学生貸費事業)※秋元家12代当主
	高橋濟	館林東校校長 東西の合併小学校(明治15年)校長
	田中謙三 秋元興朝	館林西校校長 ※造士書院設立の功労者・泥斎の子息 館林小学東舎開校資金を寄付(大名小路) 東西の小学校合併資金を寄付
館林の中学校	熊谷直方	館林東西小学校統合(当時、戸長)
	秋元興朝	太田中学校邑楽分校用地を寄付(稻荷郭・館林農業学校を経て、現在は館林女子高)
館林の私学	熊谷直方	館林農業学校、館林高等女学校設立(当時、町長)
	田中謙三	曳尾義塾

『館林文庫 館林人物誌』(福田啓作、寺島鍊二:著)、『館林市史 通史編3 館林の近代・現代』より

明治期に活躍した旧館林藩士(諸々)

城沼開発(士族就産事業)	秋元興朝	旧藩士就産事業指示、事業費用下賜(15,000円)
	村山具膽	城沼開墾事業、城沼水産事業(事業主)※一番隊隊長
	山田烏兔二	城沼開墾事業、城沼水産事業(実施者)※山田秀実子息
	近藤晋二郎	城沼耕地整理組合長(当時、町長)※森谷留八郎子息
牧場経営	戸部敬内	城沼耕地整理副組合長
	戸部敬内	牧場創業
つつじが岡公園	村山具膽	邑楽郡内全町村の住人から寄付を募り、秋元家や旧藩士にも声をかけ、個人所有者から買い戻す。維新後に荒廃した園内を整備して復興・開園。
館林城址	秋元興朝	城址の購入、三の丸跡地を市へ寄付※秋元家12代当主
	旧館林藩士有志	旧三の丸保存(私有地を購入し、秋元家に献納)
旧土橋門	秋元春朝	旧土橋門の復元 ※秋元家13代当主
邑楽護国神社	秋元礼朝	招魂祠(大谷原)を建立 ※秋元家11代当主
	小野田元熙	館林招魂社(代官町)改築
地方自治	林成昌(恪齊)	初代邑楽郡長
	村山具膽	邑楽郡長
	塩谷良翰	邑楽郡長
	熊谷彦十郎	邑楽郡長
	笠原円蔵	館林町副区長
	熊谷直方	館林町長(戸長から39年間にわたる)、群馬県議
	近藤晋二郎	館林町長、群馬県議

今日の館林に通じる文化・経済の足跡



『館林みやげ地図』黒田静三：著 大正3年 (館林市史編さんセンター蔵) を基に作成

例えば…つつじが岡公園の復興

廃藩置県
家禄奉還

半額で
払い下げ

個人での
管理困難

荒廃

明治19年
皇后・皇太后
両陛下行啓

行啓記念碑

明治13年
楢取素彦
視察

明治16年邑楽郡長
村山具胆
復興に着手

明治18年
復興開園！

邑楽郡各戸より
2銭の賛助金
+ 篤志家

昭和9年に国指定の名勝となり、今も私たちを楽しませてくれる、館林の代表的観光地です。

つつじの撮影は2019年4月27日

『公園躑躅ヶ岡』（福田啓作：著）昭和9年より

本宮の戦いの墓碑

本：本木弥三郎（会津若松の戦いで戦死）

下：下田半太夫 柴：柴田蔵次郎 惣助 政吉 道蔵



本宮・誓傳寺の館林藩士の墓
（右端）
墓碑1つに6人の墓銘がある



藩士の墓銘



夫卒の墓銘

※本木弥三郎・下田半太夫の墓は
三春・龍穩院にもある
（三春の病院で亡くなったため）

三春・龍穩院 (りゅうおんいん) の墓



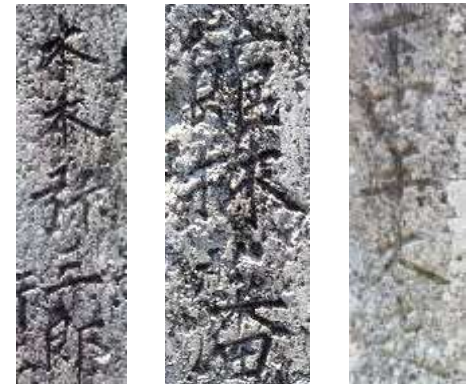
龍穩院・本堂

三春城主・秋田氏の菩提寺であり、
戊辰戦争では傷病兵の病院となる



官軍兵士の墓

(向かって右側の墓碑が館林藩士
左側は佐土原藩士・伊集院貞之助)



右側面に下田半太夫の銘、
左側面に本木弥三郎の銘

会津の戦いの墓碑

会津の中峠・駒返坂と会津若松で戦死した館林藩士が、白河市・長寿院の「慶応戊辰殉国者墳墓（西軍）」に祀られて墓碑がある。



左の写真の白丸囲みの部分

会津国境の戦いの墓碑



慶応戊辰殉国者墳墓（西軍）入口



館林藩士の墓（3基）



永田伴次郎と高山清記の墓碑
（高山氏は会津若松で戦死）



多賀谷松之助と高柳要之助の墓碑

会津若松の戦いの墓碑

白河・長寿院「慶応戊辰殉国者墳墓（西軍）」の会津若松での戦死者の墓碑
（下の3枚の写真は1つの墓碑の4つの面を表しています）



小澤劔之助と津田平吉の墓銘



常吉、与兵衛、金平の墓銘



栃尾熊吉、勝蔵、由兵衛の墓銘

※本木弥三郎の墓は本宮・誓傳寺、三春・龍穩院（三春の病院で亡くなったため）にある

会津若松の戦いの墓碑

会津若松での戦死者の館林市内の墓碑



館林・円教寺の高山清記の墓



館林・善長寺の栃尾熊吉の墓



館林・法輪寺の本木弥三郎遺髪塚

漆山陣屋藩士・梶塚勇之進の墓



山形・浄土院
館林藩士の墓
右：梶塚勇之進
左：森谷留八郎

※安養山浄土院
秋元家御廟所
歴代藩主のご位牌を
安置



平成29年6月17日
戊辰戦争150回忌法要
(読経は日野崇雄住職)



館林・大道寺の遺髪塚
(後日、母が納める)

※大砲方夫卒・鈴木清六・宮崎鶴治・桜井孫八は漆山一般住人のため、墓所は別の場所

漆山陣屋藩士・森谷留八郎の墓・供養碑



山形・浄土院
館林藩士の墓
右：梶塚勇之進
左：森谷留八郎



森谷留八郎、富塚忠三郎（御用商）、
惣吉（従者）、阿部喜左衛門（案内人）の
地元民による供養碑（明治14年・左）と
子孫建立の“供養碑のいわれ”（右）



供養碑の背後は吾妻連峰



館林・龍興寺 富塚忠三郎の墓

※館林町第5代町長の近藤晋二郎は森谷留八郎の次男

ご協力

円教寺 (館林市朝日町)
正金寺 (福島県白河市)
浄土院 (山形県山形市)
誓傳寺 (福島県本宮市)
善長寺 (館林市当郷町)
大道寺 (館林市本町2丁目)
長寿院 (福島県白河市)
法輪寺 (館林市朝日町)
龍穩院 (福島県三春町)
龍興寺 (館林市高根町)

※敬称略。ふりがな順

参考文献

『国史大辞典』
『史料宇都宮藩史』
『館林市史 資料編3 近世 I 館林の大名と藩政』
『館林市史 通史編2 近世館林の歴史』
『館林市史 通史編3 館林の近代・現代』
『栃木県史 通史編5 近世2』
『栃木県史 通史編6 近現代1』
『幕末譜代藩の政治行動』
『戊辰騒擾 旧館林藩士戦争履歴 (館林双書第27巻)』
『戊辰の役 館林藩一番隊奥羽戦記 (復刻版)』

吉川弘文館
徳田浩淳・編
館林市史編さん委員会
館林市史編さん委員会
館林市史編さん委員会
栃木県史編さん委員会
栃木県史編さん委員会
鈴木壽子
館林市教育委員会・
館林市立図書館
藤野近昌

※他の参考文献は本文中に記載

館林藩の幕末（後編）

～戊辰戦争終結150年を迎えて～

館林藩の戊辰戦争と旧藩士の作る明治

ご清聴ありがとうございました